

朝夕の気温差が激しくなりました。11月下旬には平和公園の紅葉もますます色づき、園内の窓から見える秋空と紅葉の美しいコントラストに「あれ？ここはどこかしら？」と一瞬、どこか遠い観光地に来たような気分になることもありました。（ののかぜ保育園異動、新入職員あるあるでしょうか？）

今月はさらに寒さが厳しくなっていきますが、子どもも大人も日々の生活を大事に、よく食べよく眠り、この冬も元気に過ごして行きましょう！

<署名目標達成！>

保護者の皆さん、職員のがんばりで今年目標「4000筆」を達成、「国4037筆・県4673筆・市4482筆」集まりました。今年は運動部担当皆さんのアイデア「モチベーションアップコーナー」も盛り上がり、「いや～〇〇先生若～い！」「かわいいね～」等、事務室前では保護者の皆さんの楽しい会話が飛び交っていましたよ。運動部の皆さんお疲れ様でした。

署名の集約はこれで一区切りですが、12月22日（金）運営委員会主催の縦割り懇談会で法人主幹の保母理英子職員による講演、（テーマ）「保母先生に学ぶ！保育のなあぜなあぜ」を開催します。今年は「プチ試食会&楽しい学びの時間」として給食試食会も企画し（もちろん対面です！）、「保育運動って運動会の運動じゃないの？」「署名ってどんな意味があるの？」など、ののかぜ保育園の活動への理解と絆を深められるような会にして行きたいと考えています。（必要なご家庭対象に保育体制も作ります）ぜひ多くの参加で会をお待ちしています。たくさん学んで味わって、交流を深めましょう！

<2歳児からの異年齢保育に向けて>

先日、異年齢保育をテーマにしたある学習会に参加しました。講師の方（大学教授）の「同一同質の中にいると小さな違いが目がいってしまう。例えば箸の上げ下ろし等、どうでもいいことに目くじらを立ててしまいますね…」（留学生との出会いから学んだお話を基に）という一言に、日本の子どもたちの思春期の苦しさを感じました。小さな世界で周りの目を気にしながら、苦しくなるほど気を使い、本音を出し合えない、けんかもできない仲間関係の中で生きる中高生の子どもたち、そのしんどさは今の時代を生きていない私たち世代にはわからないくらい深いものだと思います。異年齢保育は「縦に、横に、斜めに…」たくさんの「関わりと出会い」、様々な「出来事」があります。多様な関係性の中で、うまくいくことといかないこと、プラスの経験ばかりでなくマイナスの経験もくぐり、一人ひとりの多面性・多様性を認め合い、育んでいきます。

思春期の子どもたちにも今こそ「異年齢、いやいや多年齢の人間関係を」など思いながら、乳幼児期に「自分とは違う多様な人との関わり、たくさんの人との出会い」の大切さを思います。

2歳児からの異年齢保育は子ども同士の関係性をより豊かにできると、実践している保育園の報告からも学ぶ日々、職員はもちろん、今後また保護者の皆さんとともに深めていく機会を持ちたいと思います。（主幹 加藤）